

平成30年（行ウ）第57号設楽ダム公金支出差止等請求事件

原告 松倉源造外161名

被告 愛知県知事外1名

## 意見陳述書

2019年9月4日

名古屋地方裁判所民事第9部 御中

原告 大羽 康利

私は12haほどの田畑を保有していますが、自身では農業を営んでおらず、80aの畑で自家消費の果樹や野菜類を栽培しているに過ぎません。この畑にも豊川用水の給水管が置かれています。豊川用水土地改良区には年間45,717円を、田原市土地改良区には41,471円、合計87,189円の賦課金を納めており、豊川用水の水需給問題・設楽ダム建設問題については大変敏感になっている一人です。

平成29(2017)年3月、私は田原市議会に

「設楽ダムに頼らない 利水、治水、環境保全 を求める請願書」を提出し、その審議の様子を傍聴しました。

請願書の審議が行われた「総務産業委員会」では紹介議員一人のみが賛成し、他の議員は全員反対しました。委員会議事録を元にその様子をお伝えします。

まず、施設園芸を経営している賛成議員の発言です。(以下議事録の一部を引用)

「1、設楽ダム建設事業の目的の一つは、新規の水源開発で、ダムの利水容量として水道用水600万立方メートル、かんがい用水700万立方メートルが設定されています。

ここに、そのダムの水の必要な図面があります。洪水調節に10%、新規水田・水道かんがい用水に13%、そして、62%という流水正常機能維持、つまり川を維持するために62%貯水容量が示されています。4番目に堆砂として6%です。9,800万立方メートルのダムの中身はこういうことでもあります。

そして、これは2006年の豊川水系フルプラン、目標年次は2015年です。これは国の計画で需要想定に基づいていますが、その利用想定は水道用水の実績8,500万立方メートルに対して、1.6倍の1億4,200万立方メートル、水道用水と工業用水を合わせた都市用水では、実に1.9倍、目標が1億9,400万トン、実績としては1億200万立方メートルと、この数字を見ても明らかに過大な需要予測で水余りは明確であります。」

と、賛成議員の方は数字を根拠に科学的な説明をされています。

次に施設園芸を経営している反対議員の発言です。(以下議事録の一部を引用)

「私は、家で温室施設栽培をしておりますけど、渴水になるとどうしても水道用水、農業用水がまず節水の対象になります。農業用水が節水になるということは、僕らの温室の水源であるファームポンドが夜間とまることになります。夜間、ファームポンドがとまるということは、近くにある田んぼとか温室に当然水は来ませんので、言い方は辺(ママ)ですけど、ふだんはひねれば出るんですけど、節水になるとファームポンドが夜間とめられるので、ふだん晩に田んぼの方が水を入れるのが、昼間に入れることで、施設の人が水をかけるときに田んぼに取られて施設の人が水が出なくなるということがあります。」

根拠の数字はどこにもでてきません。「節水になるとファームポンドが夜間止められる」というのは本当なのかと、田原土地改良区事務局長に尋ねたところ、「そんなことはしていません。ただ平成6(1994)年に一度だけはありま

した。」とのことでした。反対議員の方は 25 年も前の、豊川総合用水事業が完成(2003 年)する前の経験を市議会の委員会で語っていたのです！渥美半島の水需給問題としては昔話であり、親が子や孫に語り継ぐべき話としては意義があっても、現在の渥美半島農業の実際ではありません。「設楽ダムを造って欲しい」という要望の中にはこの類い話が多くあります。

もう一人の反対議員の方の発言はこうです。

「大島ダムが完成(豊川総合用水事業の完成)した以後のことを報告させていただきます。豊川下流域は、これまで幾度となく渇水による節水対策が実施されて、農産物の生育や工場の生産が大きく影響を及ぼしたのは事実です。近年だけでも平成 25 年の夏は危機的な状態で、55 日間に及ぶ節水対策を余儀なくされ、節水率で農業、工業用水で 40%、水道用水で 28%に達し、昨年も夏に渇水状態になりました。台風の雨により節水をしのげましたが、どっちみち不安定な水供給は心配です。この恒久的・安定的な水の確保は、愛知県東部と湖西市を含めて、なくてはならないものです。」

そこで私は渥美半島の主要露地農産物であるキャベツとブロッコリーの総出荷量・総出荷額を25年度と他の年度(平年とする)とを比較してみました。

総出荷量 (単位:万ケース《1 ケースはキャベツ 10Kg、ブロッコリー5Kg》)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	25年度を除く平均
キャベツ	690	721	711	695	692	699
ブロッコリー	156	166	147	138	156	154

データは「JA愛知みなみ青果販売課」提供

総出荷額(単位 億円)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	25年度を除く平均
キャベツ	59.4	59.0	69.2	50.0	48.4	54.2
ブロッコリー	19.9	19.0	18.1	18.8	20.1	19.4

JA愛知みなみ事業報告書「協同のあゆみ」(23～27 年度)

25 年度は平年に比べてキャベツの総出荷量101%、総出荷額128%、ブロッコリーは総出荷量95%、総出荷額93%でした。

キャベツは総出荷量が5年間で2番目の多さです。25年度のブロッコリーの総出荷量は26年度よりも多いことにもご注目下さい。

結局「渇水が農産物の生育に大きく影響を及ぼした」という事実を見いだすことはできません。

農家の方々は「日照りに不作なし」と言いますが、水不足は植えた苗の根張りをしっかりさせ、秋冬に作物が良く成長する元となってもいるのです。

渥美半島で暮らし、農業を営んで行く上で設楽ダムは何の必要もありません。「負担ばかり増えるダムの建設は必要ない、県から多額のお金を支出するなぞ許されない」との判決を切に訴えるものです。